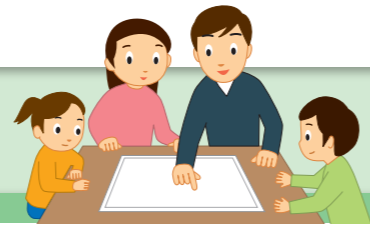


宮古島市防災マップは、市民のみなさまが災害時に避難したり、命を守る行動を考えるために役立つ情報をまとめたものです。地震や津波、台風、土砂災害などの自然災害はいつ発生してもおかしくありません。想定される災害を知り、いざというときにあわてずに行動できるように、この防災マップを使って避難所や避難方法などを確認し、“命どう宝”を合言葉に家族や地域で災害に備えましょう。

防災マップの活用

ステップ1

自宅や仕事場、学校など普段生活している場所を防災マップで確認し、災害の危険性がある場所を確認しましょう。



ステップ2

万が一に備え、避難先を確認しましょう。

- 自宅にいるとき、仕事場にいるとき、学校にいるときなどを想定し、それぞれ最寄りの避難先(緊急避難場所)を確認しておきましょう。
- 逃げ遅れた場合などに備え、身近なところで少しでも安全な場所がないか確認しておきましょう。

ステップ3

避難ルートを考えてみましょう。



- 防災マップを見て、危険の少ない安全なルートを考え、実際に避難先まで歩いてみましょう。
- 隣近所や地域のグループで意見を出し合い、避難先や避難ルートをチェックしましょう。
- 防災マップは飾っていても役に立ちません。みんなで話し合った避難ルートや緊急の避難先、地域で危険と感じているところなど、どんどんマップの中にも書き込みましょう。

ステップ4

安全・確実に避難する方法を理解しておきましょう。

- この防災マップをよく読み、災害対応に関する知識を深めるとともに、安全かつ確実に避難する方法を身につけましょう。
- 一人で避難することが困難な方(避難行動要支援者)もいます。避難の際にはみんなで声を掛け合うなど、地域の助け合いを忘れないようにしましょう。

自助・共助・公助

災害時の被害を最小限に抑えるためのキーワードとして、「自助」「共助」「公助」という言葉が良く使われます。自助とは、いざというとき自分や家族の命と財産を守るために、住民、企業が自らを守るために備えることです。共助とは、地域社会の被害を減らすために地域が一丸となって助け合うことです。公助は、行政が担う総合的な防災対策などを指しています。災害の発生を防ぐことはできませんが、これらの自助、共助、公助が連携し、効果的に機能すれば、被害を減らすことは可能です。以下にあげるポイントを理解し、災害に備えましょう。



避難行動要支援者

高齢者、障がい者、乳幼児等の特に配慮を要する方(要配慮者)のうち、災害発生時に自ら避難することが困難で支援が必要な方を、避難行動要支援者といいます。避難が必要となった場合は、地域で協力しあいながら、近所の高齢者、障がいのある方などの安否確認、避難場所への移動を支援しましょう。

地域ぐるみで支援しましょう

高齢者・病人

- おぶって安全な場所まで避難する。
- 複数の介助者で対応する。



目の不自由な方

- 声をかけ情報を伝える。
- 誘導する場合は、杖を持った方の手には触れず、ひじのあたりを軽く持つてもらい、半歩手前をゆっくり歩く。



肢体の不自由な方(車椅子)

- 階段では2人以上が必要。上りは前向き、下りは後ろ向きにして移動する。
- 介助者が1人の場合、ひもなどを用意し、おぶって避難する。



耳の不自由な方

- 話すときは、口をハッキリと開け、相手にわかりやすいようにする。
- 手話、筆談、身振りなどの方法で正確な情報を伝える。

